

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	データベースと利用技術 II_A	(TGB246A)
講義名 (コード)	データベースと利用技術 II_A	(TGB246A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2単位
授業担当者	塩飽 研二	時間数 30
成績評価教員	塩飽 研二	講義期間 秋期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 座学

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Excelの使い方について学び、データをまとめたり分析したりする情報処理スキルを身につける。 データ処理に必要な基本的な概念(四則演算、等号不等号、条件分岐)を説明することができる。
全体の内容と概要	数値データを整理して表やグラフを作成したり、平均値など簡単な統計量を求める。 データ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、データ分析ができる
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	データの整形ができる	文字列の一部を指定した位置から取り出す 文字列の分割、文字列の連結、ふるがなの表示、置換
2		文字列を検索して置換、文字列が同じかどうか調べる、改行の除去 半角と全角の統一、英字を大文字や小文字に統一、文字数と桁数
3	日付や時刻を扱うことができる	日付や時刻の計算、曜日の表示、日付データに変換、日数を求める 月末の日付を求める、1か月後の日付を求める
4		年月日を指定して日付を作る、時分を時刻に直す 土日の判定、日数を求める
5	データ分析・予想ができる	未来の分析、順位を求める、標準偏差、偏差値、上位20% 中央値、値のばらつき
6		データの分布、最頻値、極端な数値を除く、伸び率の平均 成長するデータの予測、相関係数、1つの要素をもとに予測する
7	表作成ができる	関数による表作成、連番、シート名、切り捨て、余り、複数の数値の積
8		1行おきの数値の合計、ランダムな値の発生
9	オリジナル関数が作成できる	オリジナル関数、条件付き書式で平均値以上に色を付ける 条件付き書式で土日の文字に色を付ける
10	分類に応じて羅線を引く	条件付き書式で土日の行に色を付ける、必須入力箇所 分類に応じて羅線を引く
11	マクロとVBAが組める	マクロとVBAの作成
12		マクロとVBAの作成
13	Copilotが利用できる	数式作成のアシスタント、AIによる関数検索、AIによる関数ヘルプ AIによるデータ分析、AIによる関数生成
14		期末試験
15		追試期間

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	書名：できるExcel関数 Copilot対応 Office 2024/2021/2019&Microsoft 365版 著者：尾崎裕子&できるシリーズ編集部 出版：インプレス
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	データベースと利用技術 II_B	(TGB246B)
講義名 (コード)	データベースと利用技術 II_B	(TGB246B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2単位
授業担当者	塩飽 研二	時間数 30
成績評価教員	塩飽 研二	講義期間 秋期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 座学

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Excelの使い方について学び、データをまとめたり分析したりする情報処理スキルを身につける。 データ処理に必要な基本的な概念(四則演算、等号不等号、条件分岐)を説明することができる。
全体の内容と概要	数値データを整理して表やグラフを作成したり、平均値など簡単な統計量を求める。 データ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、データ分析ができる
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	データの整形ができる	文字列の一部を指定した位置から取り出す 文字列の分割、文字列の連結、ふるがなの表示、置換
2		文字列を検索して置換、文字列が同じかどうか調べる、改行の除去 半角と全角の統一、英字を大文字や小文字に統一、文字数と桁数
3	日付や時刻を扱うことができる	日付や時刻の計算、曜日の表示、日付データに変換、日数を求める 月末の日付を求める、1か月後の日付を求める
4		年月日を指定して日付を作る、時分を時刻に直す 土日の判定、日数を求める
5	データ分析・予想ができる	未来の分析、順位を求める、標準偏差、偏差値、上位20% 中央値、値のばらつき
6		データの分布、最頻値、極端な数値を除く、伸び率の平均 成長するデータの予測、相関係数、1つの要素をもとに予測する
7	表作成ができる	関数による表作成、連番、シート名、切り捨て、余り、複数の数値の積
8		1行おきの数値の合計、ランダムな値の発生
9	オリジナル関数が作成できる	オリジナル関数、条件付き書式で平均値以上に色を付ける 条件付き書式で土日の文字に色を付ける
10	分類に応じて羅線を引く	条件付き書式で土日の行に色を付ける、必須入力箇所 分類に応じて羅線を引く
11	マクロとVBAが組める	マクロとVBAの作成
12		マクロとVBAの作成
13	Copilotが利用できる	数式作成のアシスタント、AIによる関数検索、AIによる関数ヘルプ AIによるデータ分析、AIによる関数生成
14		期末試験
15		追試期間

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	書名：できるExcel関数 Copilot対応 Office 2024/2021/2019&Microsoft 365版 著者：尾崎裕子&できるシリーズ編集部 出版：インプレス
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TGB248_グローバル産業研究Ⅱ	(TGB248)
講義名 (コード)	TGB248_グローバル産業研究Ⅱ	(TGB248)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	浅沼 渉	時間数 30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際的なビジネス環境における戦略的な課題を理解し、多国籍企業が直面する具体的な問題解決能力を養う。実践的な事例分析を通じて、グローバルな視点での意思決定能力を向上させる。
全体の内容と概要	前期に学んだ基礎知識を土台に、より実践的なグローバルビジネスの課題に焦点を当てる。異文化マネジメント、ロジスティクス、CSRといった具体的な経営戦略に加え、最新のグローバル動向や
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。特に、指定されたテキストの該当箇所を読み込み、配布されるワークシートの内容について事前に考察しておくこと。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチャットすること。授業の連絡事項や資料配布はTeamsを通して行われます。また、本授業は出席を重視します。授業の1/3以上の欠席は単位が認められませんので注意してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	国際的な人的資源管理の課題と戦略を理解する。	グローバル人材の育成、異文化間コミュニケーション、駐在員管理、多国籍企業における人事制度の最適化について議論する。
2	グローバルマーケティング戦略の立案能力を習得する。	国際市場調査、製品・価格・チャネル・プロモーションの標準化と適応化、ブランド戦略、デジタルマーケティングの活用を学ぶ。
3	国際的な組織構造とガバナンスのあり方を考察する。	多国籍企業の組織形態（国際事業部制、グローバルマトリックス組織など）、本社と子会社の関係性、グローバルガバナンスの課題を検討する
4	グローバルM&A戦略の成功要因とリスクを分析する。	国際的な企業買収・合併の動機、デューデリジェンスの重要性、統合プロセスにおける課題と成功事例、失敗事例を学ぶ。
5	知的財産権の国際的な保護と活用の重要性を理解する。	特許、商標、著作権などの知的財産権の国際法規、模倣品対策、技術移転とライセンス契約における留意点を考察する。
6	国際ビジネスにおける危機管理とリスク対応を学ぶ。	政治リスク、経済リスク、自然災害リスク、サイバーセキュリティリスクなど、グローバル企業が直面する様々なリスクとその管理手法を学ぶ。
7	新興国市場戦略の特性と成功要因を分析する。	BRICS諸国などの新興国市場の機会と課題、ボトム・オブ・ピラミッド（BOP）ビジネス、現地化戦略の重要性を検討する。
8	グローバルイノベーションマネジメントの推進方法を学ぶ。	多国籍企業におけるR&D拠点の国際分散、オープンイノベーション、異文化間の協働による新たな価値創造について考察する。
9	グローバルファイナンスと国際的な資金調達を理解する。	外国為替リスクのヘッジ、国際的な資金調達手法、海外子会社の資金管理、国際税務の基礎知識を学ぶ。
10	ESG投資とサステナビリティ経営の動向を考察する。	環境・社会・ガバナンス（ESG）の概念、企業の持続可能性への取り組み、投資家からの評価、サプライチェーンにおける人権問題などを学ぶ。
11	グローバル企業におけるコーポレートコミュニケーションを学ぶ。	国際広報、危機広報、ステークホルダーとの関係構築、多文化環境下での効果的なコミュニケーション戦略について議論する。
12	最新のグローバル産業動向と将来展望を議論する。	AI、IoT、ブロックチェーンなどの技術革新がグローバル産業に与える影響、デジタルトランスフォーメーションの推進、国際協力の未来を考察する
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	講師のレジメにより行う。
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング応用Ⅱ	(TGB250)
講義名 (コード)	マーケティング応用Ⅱ	(TGB250)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数 30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングに必要な知識を習得して応用できるようになる。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 50%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 20%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	小売業のマーケティング	コンビニ・スーパー・百貨店の戦略
2	飲食業のマーケティング	ファストフード・レストランのマーケティング
3	サービスマーケティング	小売・飲食業におけるサービスの特徴
4	BtoBマーケティング	企業間取引と消費者向けビジネスの違い
5	デジタルマーケティング①	SEO・検索エンジンマーケティングの基礎
6	デジタルマーケティング②	SNS広告・ターゲティング広告の仕組み
7	中間テスト	
8	サブスクリプションモデル	定額制ビジネスの仕組みと成功事例
9	オムニチャネル戦略	オンラインとオフラインの融合（OMO）
10	マーケティングの倫理とCSR	企業の社会的責任と消費者保護
11	未来のマーケティング①	AI・データ活用・パーソナライズマーケティング
12	未来のマーケティング②	無人店舗・ロボット接客・スマートPOS
13	マーケティングの失敗事例	企業のマーケティング失敗事例から学ぶ
14	まとめ	
15	期末テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	商業ビジネス論Ⅱ	(TGB252)	
講義名 (コード)	商業ビジネス論Ⅱ	(TGB252)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々なビジネスを組織化するために必要な経営学の考え方を理解する
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 50%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 20%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	企業と経営の歴史	歴史が教える経営の知恵：名経営者と成功の法則
2	生産管理論	最高のモノづくりとは何か：効率と品質の追求
3	財務管理論①	企業の数字を読む：資金計画と経営の安定
4	財務管理論②	資金をどう活かすか：投資とリスクマネジメント
5	中小企業（ベンチャー企業）論	挑戦する企業：起業家精神と小さな巨人の成功ストーリー
6	イノベーション	革新の力で未来を切り開く：新しい価値の創造
7	中間テスト	
8	サービス経営	顧客を感動させる：サービスの科学とアート
9	日本的経営	日本企業の独自性：強みと課題を再発見
10	国際経営	グローバルに活躍する秘訣：異文化理解と競争戦略
11	サステナブル経営	未来を見据える経営：環境・社会・ガバナンスを考える
12	ITとデジタル経営①	デジタル時代の経営基盤：ITが変えるビジネスの形
13	ITとデジタル経営②	AIとデータの可能性：次世代の競争力を築く方法
14	まとめ	
15	期末テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	企業活動研究 (経済と株式) II A		(TGB254A)
講義名 (コード)	企業活動研究 (経済と株式) II A		(TGB254A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	浅沼 渉	時間数	30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	金融市場のインフラ、金融政策の仕組み、国際金融の理論と歴史、金融危機とその規制対応について理解を深める。また、日本の金融が抱える課題とフィンテックの未来について考察する。
全体の内容と概要	派生商品の応用から始まり、金融資本市場のインフラ整備、中央銀行による金融政策の理論と歴史、非伝統的金融政策について深く掘り下げる。さらに、変動・固定為替レート制、国際金融のトリレンマなど国際金融の理論と歴史を学び、過去の金融危機とその後の金融規制、日本の金融が抱える特殊な問題、そしてフィンテックが金融にもたらす未来について考察する。
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。特に、指定されたテキストの該当箇所を読み込み、配布されるワークシートの内容について事前に考察しておくこと。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業の連絡事項や資料配布はTeamsを通じて行われます。また、本授業は出席を重視します。授業の1/3以上の欠席は単位が認められませんので注意してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	派生商品の利用方法を理解し、リスクマネジメントと企業の財務政策の意義を説明する。	派生商品を用いたリスクマネジメントの具体例を学び、企業の財務政策が企業価値に与える影響について考察する。
2	マーケットメイキングの役割と、投機が資産価格の安定性に与える影響を理解する。	金融資本市場におけるマーケットメイキングの重要性を学び、投機が資産価格の安定性や市場発の金融危機にどのように関わるかを議論する。
3	中央銀行の目標と金融政策の波及経路を理解し、短期金利のコントロール方法を説明する。	中央銀行の金融政策目標を学び、短期金利のコントロール方法、金融政策が経済に波及する経路、テイラー・ルールについて解説する。
4	インフレコントロールの歴史と非伝統的金融政策の背景を理解し、ゼロ金利・マイナス金利政策を説明する。	金融政策におけるインフレコントロールの歴史を振り返り、デフレ出現後のゼロ金利の壁、マイナス金利政策の導入とその影響について学ぶ。
5	時間軸政策と量的緩和政策を理解し、金融不安時の非伝統的金融政策の役割を説明する。	フォワードガイダンスや量的緩和政策といった非伝統的金融政策を深く学び、貨幣の中立性、金融不安と非伝統的金融政策の関係性を考察する。
6	変動為替レートと固定為替レートの違いを理解し、為替レートの決定要因を説明する	変動為替レート制と固定為替レート制のそれぞれの特徴を比較し、購買力平価説などを用いた為替レートの決定メカニズムを学ぶ。
7	開放経済における金融政策の効果と国際金融のトリレンマ、固定・変動レート制の優劣を説明する。	開放経済下での金融政策の効果、国際金融のトリレンマの概念、固定為替レート制と変動為替レート制の長所と短所について議論する。
8	国際金融の歴史における主要な制度の変遷と、国際資本移動の自由化の影響を説明する。	財政支出、貨幣発行、インフレーションの関係、金本位制とブレトンウッズ体制の歴史と崩壊、国際資本移動の自由化が金融危機に与えた影響を学ぶ。
9	途上国の通貨・経済危機、証券化の概念、2007-09年世界金融危機、ユーロ危機について説明する。	途上国における自己実現的期待による通貨・経済危機、証券化の仕組み、リーマンショックに端を発する世界金融危機とユーロ危機の背景を分析する。
10	金融危機後の金融規制強化策を理解する。	金融危機を受けて導入されたバーゼル規制、ボルカー・ルール、大きすぎてつぶせない問題、バイルインの概念と、金融政策とブルーデンス政策の関係を学ぶ。
11	日本の金融が抱えるバブル崩壊の後遺症、リスクマネーの欠如、企業ガバナンス、財政の維持可能性の懸念を説明する。	日本のバブル崩壊とその後の長期停滞、リスクマネーの供給不足、日本の企業ガバナンスの課題、インフレ目標と財政の維持可能性の懸念について考察する。
12	電子マネー、ビットコイン、仮想通貨の普及状況を理解し、金融の未来について考察する。	電子マネーの普及と、ビットコインをはじめとする仮想通貨の技術的背景と、それが金融システムと社会に与える影響について議論する。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	企業活動研究 (経済と株式) II B	(TGB254B)
講義名 (コード)	企業活動研究 (経済と株式) II B	(TGB254B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	浅沼 渉	時間数 30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	金融市場のインフラ、金融政策の仕組み、国際金融の理論と歴史、金融危機とその規制対応について理解を深める。また、日本の金融が抱える課題とフィンテックの未来について考察する。
全体の内容と概要	派生商品の応用から始まり、金融資本市場のインフラ整備、中央銀行による金融政策の理論と歴史、非伝統的金融政策について深く掘り下げる。さらに、変動・固定為替レート制、国際金融のトリレンマなど国際金融の理論と歴史を学び、過去の金融危機とその後の金融規制、日本の金融が抱える特殊な問題、そしてフィンテックが金融にもたらす未来について考察する。
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。特に、指定されたテキストの該当箇所を読み込み、配布されるワークシートの内容について事前に考察しておくこと。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業の連絡事項や資料配布はTeamsを通じて行われます。また、本授業は出席を重視します。授業の1/3以上の欠席は単位が認められませんので注意してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	派生商品の利用方法を理解し、リスクマネジメントと企業の財務政策の意義を説明する。	派生商品を用いたリスクマネジメントの具体例を学び、企業の財務政策が企業価値に与える影響について考察する。
2	マーケットメイキングの役割と、投機が資産価格の安定性に与える影響を理解する。	金融資本市場におけるマーケットメイキングの重要性を学び、投機が資産価格の安定性や市場発の金融危機にどのように関わるかを議論する。
3	中央銀行の目標と金融政策の波及経路を理解し、短期金利のコントロール方法を説明する。	中央銀行の金融政策目標を学び、短期金利のコントロール方法、金融政策が経済に波及する経路、テイラー・ルールについて解説する。
4	インフレコントロールの歴史と非伝統的金融政策の背景を理解し、ゼロ金利・マイナス金利政策を説明する。	金融政策におけるインフレコントロールの歴史を振り返り、デフレ出現後のゼロ金利の壁、マイナス金利政策の導入とその影響について学ぶ。
5	時間軸政策と量的緩和政策を理解し、金融不安時の非伝統的金融政策の役割を説明する。	フォワードガイダンスや量的緩和政策といった非伝統的金融政策を深く学び、貨幣の中立性、金融不安と非伝統的金融政策の関係性を考察する。
6	変動為替レートと固定為替レートの違いを理解し、為替レートの決定要因を説明する	変動為替レート制と固定為替レート制のそれぞれの特徴を比較し、購買力平価説などを用いた為替レートの決定メカニズムを学ぶ。
7	開放経済における金融政策の効果と国際金融のトリレンマ、固定・変動レート制の優劣を説明する。	開放経済下での金融政策の効果、国際金融のトリレンマの概念、固定為替レート制と変動為替レート制の長所と短所について議論する。
8	国際金融の歴史における主要な制度の変遷と、国際資本移動の自由化の影響を説明する。	財政支出、貨幣発行、インフレーションの関係、金本位制とブレトンウッズ体制の歴史と崩壊、国際資本移動の自由化が金融危機に与えた影響を学ぶ。
9	途上国の通貨・経済危機、証券化の概念、2007-09年世界金融危機、ユーロ危機について説明する。	途上国における自己実現的期待による通貨・経済危機、証券化の仕組み、リーマンショックに端を発する世界金融危機とユーロ危機の背景を分析する。
10	金融危機後の金融規制強化策を理解する。	金融危機を受けて導入されたバーゼル規制、ボルカー・ルール、大きすぎてつぶせない問題、バイルインの概念と、金融政策とブルーデンス政策の関係を学ぶ。
11	日本の金融が抱えるバブル崩壊の後遺症、リスクマネーの欠如、企業ガバナンス、財政の維持可能性の懸念を説明する。	日本のバブル崩壊とその後の長期停滞、リスクマネーの供給不足、日本の企業ガバナンスの課題、インフレ目標と財政の維持可能性の懸念について考察する。
12	電子マネー、ビットコイン、仮想通貨の普及状況を理解し、金融の未来について考察する。	電子マネーの普及と、ビットコインをはじめとする仮想通貨の技術的背景と、それらが金融システムと社会に与える影響について議論する。
13	プレビュー	

14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TGB258A_企業財務分析論ⅡA	(TGB258)
講義名 (コード)	TGB258A_企業財務分析論ⅡA	(TGB258)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	浅沼 渉	時間数 30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	財務分析の主要な指標とその意味を理解し、企業の安全性、収益性、生産性、成長性を多角的に評価できる能力を養う。
全体の内容と概要	財務諸表を用いた具体的な分析手法を学び、企業の安全性、収益性、生産性、成長性を評価するための指標（比率分析など）を習得する。また、レバレッジ効果やのれん、減価償却費といった応用
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。特に、指定されたテキストの該当箇所を読み込み、配布されるワークシートの内容について事前に考察しておくこと。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをナエツクすること。授業の連絡事項や資料配布はTeamsを通して行われます。また、本授業は出席を重視します。授業の1/3以上の欠席は単位が認められませんので注意してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	財務分析の目的と全体像を説明できる。	前期で学んだ財務諸表の知識を基に、財務分析がなぜ重要か、どのような視点で行われるかを概観する。
2	財務レバレッジと営業レバレッジの概念を説明できる。	財務レバレッジと営業レバレッジが企業の利益変動に与える影響について、具体的な計算を通じて理解を深める。
3	のれんの意義と会計処理を説明できる。	M&Aにおけるのれんの概念と、会計上の認識・測定・償却について学ぶ。
4	減価償却費の計算方法（定額法、定率法）を説明できる。	有形固定資産の減価償却について、定額法と定率法それぞれの計算方法と、財務諸表への影響を理解する。
5	収益性分析の応用的な側面を理解できる。	損益計算書のより詳細な分析を通じて、売上総利益、営業利益、経常利益、純利益の意味と相互関係を学ぶ。
6	安全性分析の応用的な側面を理解できる。	キャッシュフロー計算書を用いた資金繰り分析や、負債の内訳（有利子負債など）に着目した安全性分析を学ぶ。
7	損益分岐点分析を応用して経営計画に活用できる。	費用構造（固定費・変動費）と利益の関係をさらに深く掘り下げ、損益分岐点分析を経営戦略に応用する方法を学ぶ。
8	企業価値評価の基本的な考え方を説明できる。	財務分析が企業価値評価とどのように関連するかを概説し、簡単な企業価値評価のフレームワークを紹介する。
9	ケーススタディを通じて総合的な財務分析を実践できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、安全性、収益性、生産性、成長性の観点から総合的な財務分析を行う演習を行う。
10	財務分析の結果を解釈し、企業の課題や強みを抽出できる。	財務分析によって得られた数値をどのように解釈し、企業の経営課題や競争優位性を特定するかについて議論する。
11	財務分析報告書の作成方法を理解できる。	財務分析の結果を効果的に伝えるための報告書の構成要素とポイントについて学ぶ。
12	最新の会計基準や財務報告の動向について概要を説明できる。	IFRS（国際財務報告基準）など、近年の会計基準の変更が財務分析に与える影響について概説する。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	100分でわかる！決算書「分析」超入門2025
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TGB258B_企業財務分析論 II B	(TGB258)
講義名 (コード)	TGB258B_企業財務分析論 II B	(TGB258)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	浅沼 渉	時間数 30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	財務分析の主要な指標とその意味を理解し、企業の安全性、収益性、生産性、成長性を多角的に評価できる能力を養う。
全体の内容と概要	財務諸表を用いた具体的な分析手法を学び、企業の安全性、収益性、生産性、成長性を評価するための指標（比率分析など）を習得する。また、レバレッジ効果やのれん、減価償却費といった応用
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。特に、指定されたテキストの該当箇所を読み込み、配布されるワークシートの内容について事前に考察しておくこと。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業の連絡事項や資料配布はTeamsを通じて行われます。また、本授業は出席を重視します。授業の1/3以上の欠席は単位が認められませんので注意してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	財務分析の目的と全体像を説明できる。	前期で学んだ財務諸表の知識を基に、財務分析がなぜ重要か、どのような視点で行われるかを概観する。
2	財務レバレッジと営業レバレッジの概念を説明できる。	財務レバレッジと営業レバレッジが企業の利益変動に与える影響について、具体的な計算を通じて理解を深める。
3	のれんの意義と会計処理を説明できる。	M&Aにおけるのれんの概念と、会計上の認識・測定・償却について学ぶ。
4	減価償却費の計算方法（定額法、定率法）を説明できる。	有形固定資産の減価償却について、定額法と定率法それぞれの計算方法と、財務諸表への影響を理解する。
5	収益性分析の応用的な側面を理解できる。	損益計算書のより詳細な分析を通じて、売上総利益、営業利益、経常利益、純利益の意味と相互関係を学ぶ。
6	安全性分析の応用的な側面を理解できる。	キャッシュフロー計算書を用いた資金繰り分析や、負債の内訳（有利子負債など）に着目した安全性分析を学ぶ。
7	損益分岐点分析を応用して経営計画に活用できる。	費用構造（固定費・変動費）と利益の関係をさらに深く掘り下げ、損益分岐点分析を経営戦略に応用する方法を学ぶ。
8	企業価値評価の基本的な考え方を説明できる。	財務分析が企業価値評価とどのように関連するかを概説し、簡単な企業価値評価のフレームワークを紹介する。
9	ケーススタディを通じて総合的な財務分析を実践できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、安全性、収益性、生産性、成長性の観点から総合的な財務分析を行う演習を行う。
10	財務分析の結果を解釈し、企業の課題や強みを抽出できる。	財務分析によって得られた数値をどのように解釈し、企業の経営課題や競争優位性を特定するかについて議論する。
11	財務分析報告書の作成方法を理解できる。	財務分析の結果を効果的に伝えるための報告書の構成要素とポイントについて学ぶ。
12	最新の会計基準や財務報告の動向について概要を説明できる。	IFRS（国際財務報告基準）など、近年の会計基準の変更が財務分析に与える影響について概説する。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	100分でわかる！決算書「分析」超入門2025
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス統計学Ⅱ	(TGB260)	
講義名 (コード)	ビジネス統計学Ⅱ	(TGB260)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高島 宏之	時間数	30
成績評価教員	高島 宏之	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスにおけるデータ駆動型意思決定に必要な統計学の基礎理論と手法を習得する。実際のビジネスデータから客観的な事実を導き出し、適切に運用できる能力の育成を目指す。
全体の内容と概要	後期はサンプルから全体を予測する標本調査や中心極限定理、意思決定の基準となる仮説検定、そして変数間の関係性を探る相関・回帰分析を実践的に学ぶ。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	全数調査と標本調査の違いとメリットを理解する。	集団全体を調べる全数調査と、一部を抜き出す標本調査の仕組みを学び、ビジネスにおけるサンプル抽出の重要性を知る。
2	標本から母集団を推測する基礎概念を習得する。	母集団と標本の関係、母数（母平均、母分散）と標本統計量の違いについて学び、ランダムサンプリングの手法を理解する。
3	統計学で最も重要な中心極限定理を理解する。	サンプルサイズが大きくなると、元の分布に関わらず標本平均の分布が正規分布に近づくという中心極限定理を学ぶ。
4	点推定と区間推定の考え方の違いを習得する。	標本から母数を一つの値で予想する点推定と、幅を持たせて予想する区間推定（信頼区間）の理論と計算を学ぶ。
5	母平均の信頼区間の構成方法を習得する。	正規分布やt分布を用いて、ビジネスデータ（平均顧客単価など）の母平均を特定の信頼度で区間推定する手法を学ぶ。
6	仮説検定の基本的な考え方と手順を理解する。	統計的判断の基準となる仮説検定の流れを学び、効果の有無などを客観的に評価する仕組みの基礎を習得する。
7	帰無仮説と対立仮説の設定方法を習得する。	検定のスタートとなる帰無仮説（否定したい仮説）と対立仮説（証明したい仮説）の正しい立て方と意味を理解する。
8	有意水準とp値による意思決定の方法を学ぶ。	結論を出す際の基準となる有意水準（5%や1%）の概念と、計算されたp値との比較による仮説の採択・棄却を習得する。
9	2つの変数間のリニアな関係性を数値化する。	散布図を用いたデータの視覚化と、2変数間の相関関係の強さを表す相関係数の意味および計算方法を学ぶ。
10	1つの変数から他の変数を予測する回帰分析を学ぶ。	原因（説明変数）と結果（目的変数）の関係を数式で表す単回帰分析の概念と、最小二乗法による回帰直線の求め方を習得する。
11	回帰直線の妥当性とビジネスへの予測応用を学ぶ。	決定係数を用いて回帰モデルの当てはまりの良さを評価する方法を学び、将来の売上予測などへの具体的な活用を考える。
12	後期に学んだ推測統計と多変数分析を総括する。	標本調査、仮説検定、相関・回帰分析まで、後期に学んだデータ分析手法の連動性を総合演習を通じて確認する。
13	後期の学習内容を見直し、最終試験に備える。	【Preview】 後期第1回から第12回までの重要ポイントを総復習し、定期試験に向けた論点の整理を行う。
14	後期学習内容の理解度と応用力を測定する。	【Final Exam】 後期筆記試験。標本誤差の計算、仮説検定のプロセス、相関・回帰直線の解釈に関する問題を課す。
15	1年間の学習成果を振り返り、今後の活用を促す。	【Review & Feedback】 後期試験の解説、1年間のビジネス統計学全体のフィードバック、実社会でのデータ活用へのアドバイスをを行う。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	配布プリント
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プロジェクト演習 II	(256)	
講義名 (コード)	プロジェクト演習 II	(256)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	浅沼 渉	時間数	30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	現代の多様な社会課題をビジネスの力で解決する手法を学ぶ。前期は実在する先進企業の成功事例をリサーチし、後期はベンチャーピッチ大会に向け、独自の持続可能なビジネスモデルを考案・発
全体の内容と概要	通年で社会課題解決型ビジネスの構築力を身につける。後期は、顧客価値・競合分析・SWOT・MVP等のフレームを使い、独自の事業案を企画・発表する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期のゴールであるベンチャーピッチ大会の概要を理解する。	後期のオリエンテーション。ベンチャーピッチの評価基準（特に新規性、実現可能性、マネタイズ）と全体の流れを学ぶ。
2	自分が解決したい社会課題を再定義し、アイデアを出す。	各自またはグループで、後期に本気で取り組みたい社会課題を1つ選定し、解決に向けたブレインストーミングを行う。
3	ビジネスモデルの主役となる明確なターゲット顧客を設定する。	設定した社会課題において、最も困っている「誰（ペルソナ）」のためのサービスなのか、顧客の悩みを具体化する。
4	独自のビジネスが提供する「最も重要な価値」を定義する。	型に沿って提供価値を一文で言語化し、顧客の利用前後（Before/After）で状況や感情がどう変化するかを予測・設計する。
5	新規ビジネスが顧客に価値を届ける接点と方法を企画する。	オンライン・オフラインの組み合わせや、顧客がサービスを認知し、継続利用するまでのチャネル（提供ルート）を設計する。
6	既存の解決策を調査し、自分たちのビジネスの差別化を測る。	類似する競合サービスや行政の取り組みをリサーチし、自分たちのプランがどこで優位に立つか、独自の差別化要因を記述する。
7	考案中のアイデアの強みと弱み、外部環境の影響を分析する。	SWOT分析を用い、自分たちのチームの内部要因（強み・弱み）と、市場のトレンドや法規制などの外部要因を整理する。
8	分析結果を基に、独自のビジネスモデル全体の骨組みを創る。	SWOTの掛け合わせや競合分析の結果を活かし、ビジネス化の壁やリスクを想定しながら、全体プランの初期構築を行う。
9	プランの要となる「収益モデル」を具体的に設計する。	ベンチャーピッチで重要視されるマネタイズを深掘りし、具体的な収益源を3つ以上挙げ、価格設定の根拠を論理的に説明する。
10	ビジネスを運営するための「コスト構造と資源」を試算する。	サービスを回す上での主要コスト上位3つを算出し、必要な経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の具体化を行う。
11	需要を検証するための最小限のサービスアイデアを構築する。	莫大な資金をかけずに、ニーズの有無を顧客に直接検証できる最小限のサービス（MVP）の具体的な内容と検証方法を考案する。
12	構築したビジネスモデルの矛盾を無くし、完成度を高める。	価値提案、チャネル、収益、コスト、MVPの一連の流れに矛盾がないか、グループ内でクリティカルに検証しブラッシュアップする。
13	ピッチ大会に向け、聴衆を惹きつけるプレゼン資料を創る。	投資家や審査員に伝わる構成（課題、解決策、マネタイズ、優位性）を意識し、視覚的で論理的なピッチスライドを作成する。
14	構築したオリジナルビジネスモデルのピッチ発表を行う。	後期の集大成として「ベンチャーピッチ大会」を実施。各チームが考案した新規事業プランを制限時間内でプレゼンする。
15	ピッチ大会の評価を振り返り、今後のキャリアへ活かす。	審査結果のフィードバック、優秀チームの表彰を行い、1年間を通じて培ったアントレプレナーシップとビジネス思考を総括する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策PPT II		
講義名 (コード)	MOS対策PPT II		
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	佐々木 隆一	時間数	30
成績評価教員	佐々木 隆一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義/演習・実習

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	前期に引き続き、実社会や企業において即戦力として活躍できることを目標に、本学の教育理念に基づき情報リテラシーのスキルアップとキャリアを自ら形成・発展させる。
全体の内容と概要	表計算ソフトExcelを中心に、1年次に学習した基本を踏まえビジネス上よく使用される計算式や関数及びデータベース機能などについて学習し、さらに演習により学んだ知識を定着し発展させる。
授業時間外の学修	余力がある人は、ドリルやオプションの問題に積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	教科書は毎回必ず持参すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	期末試験を受験し、かつ原則として出席率が60%以上。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション Excel概要・基本用語の理解	Excelの基本用語と画面構成/構成要素 基本操作練習 (p100-115)
2	基本操作をマスターする	範囲指定/書式設定/印刷の方法 練習9&10演習/オプション課題
3	よく使われる計算式と関数1	ビジネスでよく使われる用語と計算式 練習12・13・14/オプション課題
4	よく使われる計算式と関数2	関数のネスト/端数処理/論理関数 演習
5	よく使われる計算式と関数3	関数のネスト/端数処理/論理関数 練習15&16演習/オプション課題
6	よく使われる計算式と関数4	IF関数とVLOOKUP関数について VLOOKUP関数の利用(ドリルp47-48)/演習(ドリルp49)
7	グラフ作成の基本	用語の理解/グラフリボンの機能と操作 (p153-169) 練習17&18演習
8	適切なグラフを作成できる	いろいろなグラフ (p169-176) /レーダーチャート・複合グラフ作成 グラフの印刷/練習19&20&21演習
9	グラフの活用演習	演習：ドリルp33-34、p53-54、p55-56他
10	データベース機能の活用1	用語の理解/データリボンの機能と操作 演習：ドリルp37-40、p41-43
11	データベース機能の活用2	データベース機能の活用口 演習：ドリルp63-65
12	総合演習	「基本演習」総合8 (p210)&総合9 (p211)他
13	まとめと補足	補足説明/質疑応答他
14	期末試験	
15	再試・フィードバック	再試/フィードバック 自由研究

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN : 978-4908434358 書籍名/出版社 : Office基礎と情報モラル (Office2019対応) /noa出版
参考文献・資料等	「よくわかるExcel2016ドリル」/FOM出版 (1年次に配布済み)
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策PPT II A		(TGB244)
講義名 (コード)	TGB244A_MOS対策PPT II A		(TGB244A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報処理技術者試験のITパスポート試験シラバスV6.3に対応した内容を身に付けることを目的とし、また本授業終了後に、本試験に合格することを到達目標とする。
全体の内容と概要	ITパスポート試験に必要な、ストラテジ系とマネジメント系(春学期)、テクノロジー系(秋学期)の知識をインプットして、問題集で知識をアウトプットする。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識(教科書)を整理すること、また問題集を何度も解きなおすこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	確認テスト提出	基礎理論 1 回目（離散数学/応用数学/情報理論）
2	確認テスト提出	基礎理論 2 回目（離散数学/応用数学/情報理論）
3	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング1回目（データ構造）
4	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング2回目（アルゴリズム）
5	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング3回目（プログラム言語）
6	確認テスト提出	システム（処理形態/利用形態/性能と信頼性）
7	確認テスト提出	ハードウェア（コンピュータ/記憶装置/入出力装置）
8	確認テスト提出	ソフトウェア（OS/ファイルシステム/オフィスツール/その他）
9	確認テスト提出	データベース（方式/設計/処理機能）
10	確認テスト提出	ネットワーク 1 回目(方式/通信プロトコル/応用)
11	確認テスト提出	ネットワーク 2 回目(方式/通信プロトコル/応用)
12	確認テスト提出	セキュリティ1回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策)
13	確認テスト提出	セキュリティ2回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策)
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試験実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ITパスポート教科書&問題集 2026年度版（TAC出版情報処理試験研究会）
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策PPT II	(TGB244)
講義名 (コード)	MOS対策PPT II B	(TGB244B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB2	単位数 2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数 30時間
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	PowerPointについてビジネスレベルのプレゼンテーションを身につける。
全体の内容と概要	授業の進め方としては、プレゼンテーションの企画・資料作成・発表の仕方を学習する。なお、PPTの操作方法はネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指す。
授業時間外の学修	プレゼン資料作成のタイピング速度の向上のため、タイピングアプリを使い、タイピングの速度向上に取り組む。
履修上の注意事項等	officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 PCは、学校から貸し出す。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	PPTのスキル確認	自己紹介をPPTで作成・発表を実施し、どの程度対応力があるのかを確認、作成した資料をTeams経由で提出
2	プレゼンの本質理解	プレゼンの本質理解聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン資料作成とは
3	PPTの基本操作	1.起動、新規ファイル作成、保存、2.スライド操作、3.テキストボックス操作（前半）
4	PPTの基本操作	3.テキストボックス操作（後半）4.スマートアート、5.グラフ、図形、表、
5	PPTの基本操作	6.アニメーション、7.スライドマスター、8.その他
6	PPTの基本操作	課題
7	PPTの基本操作	課題発表
8	プレゼンの基本	聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン作成手順
9	プレゼンの基本	プレゼンの企画書を作成
10	プレゼンの基本	プレゼンの企画書をフィードバック、プレゼン資料の作成
11	プレゼンの基本	プレゼン資料の作成
12	プレゼンの基本	課題発表
13	プレゼンの基本	課題発表
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	PDF教材
参考文献・資料等	2026年度では、Linkedinを利用した動画による授業と説明、演習を行っていく予定であるため、授業内容に一部変更をするときがある。その場合、授業等で連絡予定。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナーⅣ		(TGB242)
講義名 (コード)	ビジネスマナーⅣA		(TGB242A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	卒業後の進路を確定させる
全体の内容と概要	卒業後の進路を確定させるために学び、活動する
授業時間外の学修	卒業後の進路先への訪問や受験等の実施
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行います。満たない場合には単位不合格になることもある

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	夏休みまでの振り返りと今後について	これまで自分が実施してきたことのまとめと共有
2	履歴書と面接内容について①	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート①
3	履歴書と面接内容について②	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート②
4	履歴書と面接内容について③	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート③
5	なぜ卒業後の希望する進路が確定できないのか①	これまでの自分の行動の振り返りと、今後すべきことの洗い出しを行う
6	企業が欲しい人財と就活	「社会人基礎力」から企業が必要とする人財について知り、自分を振り返る
7	履歴書のアップデート	前回の授業の内容から履歴書のアップデートを行う
8	面接応答内容のアップデート	前回・前々回の授業の内容や自分の振り返りから面接での応答内容について考える
9	確定した進路のために必要なこと	進学・就職までにすべきことを考え、実施の計画を立てる
10	卒業までにすること①	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる①
11	卒業までにすること②	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる②
12	後輩に向けて	卒業後の進路のための自分の活動を振り返り、後輩へのアドバイスをまとめる
13	テスト前まとめ	これまでのまとめとテストに向けて準備する
14	期末試験	期末試験
15	復習等	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には随時指示します
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスマナーⅣ		(TGB242)
講義名 (コード)	ビジネスマナーⅣB		(TGB242B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	卒業後の進路を確定させる
全体の内容と概要	卒業後の進路を確定させるために学び、活動する
授業時間外の学修	卒業後の進路先への訪問や受験等の実施
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行います。満たない場合には単位不合格になることもある

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	夏休みまでの振り返りと今後について	これまで自分が実施してきたことのまとめと共有
2	履歴書と面接内容について①	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート①
3	履歴書と面接内容について②	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート②
4	履歴書と面接内容について③	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート③
5	なぜ卒業後の希望する進路が確定できないのか①	これまでの自分の行動の振り返りと、今後すべきことの洗い出しを行う
6	企業が欲しい人財と就活	「社会人基礎力」から企業が必要とする人財について知り、自分を振り返る
7	履歴書のアップデート	前回の授業の内容から履歴書のアップデートを行う
8	面接応答内容のアップデート	前回・前々回の授業の内容や自分の振り返りから面接での応答内容について考える
9	確定した進路のために必要なこと	進学・就職までにすべきことを考え、実施の計画を立てる
10	卒業までにすること①	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる①
11	卒業までにすること②	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる②
12	後輩に向けて	卒業後の進路のための自分の活動を振り返り、後輩へのアドバイスをまとめる
13	テスト前まとめ	これまでのまとめとテストに向けて準備する
14	期末試験	期末試験
15	復習等	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には随時指示します
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコミュニケーション I	(TGB270)	
講義名 (コード)	ビジネスコミュニケーション I	(TGB270)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	前田 未来	時間数	30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	The objective of this class is to target the specific needs and level of proficiency in communication on how students can express a well structured and concrete ideas from descriptive research, narrative and opinion.
全体の内容と概要	Each lesson students will enhance their English language communication competence ability. It provides a wide range of learning opportunities to express students' way of learning by doing individual research, pair or group work discussions, presentation and other interactive activities.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 14: The history of parachutes - Class Activity (Research and presentation: The history of parachutes, the evolution and innovation of parachutes)
2	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 15: Microchips- Class Activity (Discussion and debate: The advantages and disadvantages of putting microchips in human body)
3	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 16: The new Bioco- Class Activity (Research and presentation: The right medicines for certain diseases, how reliable the modern medicine to treat illness)
4	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 17: The resourceful landlord- Class Activity (Opinion: Why is being resourceful important, how to develop resourcefulness)
5	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 18: The first organ transplant- Class Activity (Debate: Pro and Con Gift of life for a living donor)
6	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 19: The north star- Class Activity (Presentation: National holidays and Festivals)
7	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 20: Dressed to excess-Class Activity (Presentation: Historical fashion trends VS. Modern fashion trends)
8	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 21: Amazing Komodo Dragons- Class Activity: (Research: Komodo Dragons)
9	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 22: Greek magical papyri-Class Activity (Discussion: Famous magic spells in your country)
10	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 23: Dangerous bites- Class Activity (Presentation: Fatal bites)
11	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 24: A The Lydian King- Class Activity (Group Discussion: Creating an empire in our current society, how it works to live a fulfilling life)
12	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 25: The end of smallpox- Class Activity(Presentation: How can we protect and prevent ourselves from any diseases)

13	Enable the students to provide learning opportunities through output for language fluency and communication competence.	Unit 26: Epidemic in Zimbabwe- Class Activity (Research and presentation: The corona pandemic)
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	4000 Essential English Words 4
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	TGB266	ビジネス英語 IV	
科目名 (コード)	TGB266	ビジネス英語 IV	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2/HB2	単位数	2単位30
授業担当者	吉田 和正	時間数	
成績評価教員	吉田 和正	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	Students will develop intermediate English communication skills for professional contexts, focusing on practical vocabulary, grammar, and social strategies to interact effectively with international clients and colleagues in various business scenarios.
全体の内容と概要	This course utilizes "International Express Intermediate" to cover essential business topics. Students will practice speaking, listening, reading, and writing through task-based activities, including networking, making presentations, and handling professional correspondence.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	Class schedules and content are subject to change depending on the progress of the class, holidays, or school events.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Discuss health, safety, and workplace environment	Unit 6: Technology. Using modal verbs for obligation and permission (must, have to, can) in professional settings.
2	Explain how to use technology and equipment.	Unit 6: Instructions. Giving clear, step-by-step instructions and troubleshooting common technical issues in the office.
3	Use hypothetical language to discuss business possibilities.	Unit 7: Environment. Introduction to the first conditional to discuss environmental impact and potential business consequences.
4	Participate in meetings and express opinions clearly.	Unit 7: Meetings. Vocabulary and phrases for agreeing, disagreeing, and facilitating discussions during professional gatherings.
5	Discuss travel arrangements and past travel experiences.	Unit 8: Entertainment. Using the past continuous and past simple to narrate travel stories and business trips.
6	Host international guests and handle social invitations.	Unit 8: Hospitality. Practicing phrases for inviting, accepting, and declining invitations, and making guests feel welcome.
7	Give advice and suggest solutions to problems.	Unit 9: Images. Using "should" and "ought to" to provide recommendations regarding brand image and marketing.
8	Present information and describe visual trends effectively.	Unit 9: Presentation. Developing skills for starting a presentation and describing trends using graphs and charts.
9	Discuss rules, laws, and professional responsibilities.	Unit 10: Competition. Reviewing modal verbs for necessity and prohibition in the context of market competition.
10	Negotiate simple deals and reach mutual agreements.	Unit 10: Negotiation. Key phrases for bargaining, making concessions, and closing a deal in a business environment.
11	Review key grammar points from Units 6 to 8.	Final Review I. Intensive practice on instructions, conditional forms, and social hospitality in business scenarios.
12	Review key grammar points from Units 9 to 10.	Final Review II. Focus on presentation skills, modal verbs for rules, and basic negotiation strategies.
13	Preview	Comprehensive final assessment covering Units 6 through 10.
14	Final Exam	Final evaluation, grading breakdown, and advice for future studies.
15	Review & Feedback	Review of exam results and personalized feedback on performance.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	International Express Intermediate
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TOEIC III_A		(TGB264A)
講義名 (コード)	TOEIC III_A		(TGB264A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	前田 未来	時間数	30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	The class is designed to provide and educate students into a larger scale of acquisition in mastering the skills and strategies in TOEIC from vocabulary expansion, grammar terminologies, listening strategy and reading strategy. Each lesson is incorporated with listening practice for comprehension skills development, grammar practice based on key points and particular structures of interest in the TOEIC. The lesson also also provide exercises such as mini-test and review test, which allow the students to understand the fundamentals of grammar and other components of TOEIC. Reading practice will give the students the opportunity to gain vocabulary and also how to demonstrate and understand the written English in different types of information.
全体の内容と概要	To develop students' test-taking skills and achieve higher test score. Enable the students to build valuable test-taking strategies, and giving them the exposure to the kind of questions they will encounter on the actual test.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to develop strategies to analyse and recognize relevant information in listening passages, such a the house and workplace. Students will also acquire and develop their knowledge about the fundamental and terminologies of grammar specifically in parts of speech and verb tenses.	Chapter 1: Listening Practice- Part 1 Photographs: House and Workplace / Chapter 2: Grammar Practice- Part 1 Parts of Speech and Part 2 Tenses; Mini-test TOEIC Part 5 & 6
2	Enable the students to develop on how to identify appropriate answers for questions with an interrogative.his part, students will learn comprehensive skills in identifying different types of information, such as emails and letters.	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with an interrogative/ Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7: Emails and Letters
3	Enable the students to develop on how to identify key points from the short conversation in order to answer the questions. Students will also acquire and develop their knowledge about the fundamental and terminologies of grammar specifically in voice and agreement.	Chapter 1: Listening Practice - Part 3 Short Conversations:Office Talk/ Chapter 2: Grammar Practice: Part 3 Voice and Part 4 Agreement; Mini-test TOEIC Part 5 & 6
4	Enable the students to develop how to identify keypoints in order to answer questions in a short talk. Students will acquire on how to focus and identify the main points of advertisement.	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Office Announcements 1,2/ Chapter 3: Reading Practice- TOEIC Part 7: Advertisement
5	Enable the students to develop strategies to analyse and recognize relevant information in listening passages, such businesses and other public places.	Chapter 1: Listening Practice - Part 1 Photographs: Businesses and Other Public Places/ Chapter 2:Grammar Practice-Part 5 Infinitive and Gerunds; Mini-test TOEIC Part 5 & 6
6	Students will also acquire and develop their knowledge about the fundamental and terminologies of grammar specifically in infinitives and gerunds form.	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with Yes/No Chapter 2:Grammar Practice-Part 6 Participles and Participles clauses; Mini-test TOEIC Part 5 & 6

7	Enable the students to develop on how to identify key points from the short conversation in order to answer the questions. Students will also acquire and develop comprehensive skills in identifying different types of information, such as office memos, notes, articles and reports.	Chapter 1: Listening Practice -Part 3 Short Conversations: Workplace Dilemmas/Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7: Office Memos and Notes, Articles and Reports
8	Enable the students to develop on how to identify key points from the short talks in order to answer questions.	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Speeches/ Lectures, Public Announcements/ Chapter 2: Grammar Practice - Part 7 Relative Clauses; Mini-test TOEIC Part 5 & 6
9	Enable the students to develop on how to identify appropriate answers for questions with tag, declarative and indirect. This part, students will learn comprehensive skills in identifying different types of information, such as office memos, notes, articles and reports.	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with Tag/Declarative/Indirect ; Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7: Office Memos and Notes, Articles and Reports
10	Enable the students to develop on how to identify key points from the short conversation in order to answer the questions. Students will also acquire and develop their knowledge about the fundamental and terminologies of grammar specifically in conjunction and prepositions.	Chapter 1: Listening Practice -Part 3 Short Conversations: Staffing Changes/ Chapter 2: Grammar Practice - Part 8 Conjunction and Prepositions;
11	Enable the students to develop on how to identify key points from the short talks in order to answer questions. Students will also acquire and develop their knowledge about the fundamental and terminologies of grammar specifically in modification.	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Telephone Messages, Advertisements / Chapter 2: Grammar Practice - Part 9 Modification
12	Enable the students to develop on how to identify key points from the short talks in order to answer questions. Students will also acquire and develop comprehensive skills in identifying different types of information, such as text messages and instant Message chains and	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Broadcasts Tours and Trips/ Chapter 3: Reading Practice -TOEIC Part 7: Text Messages and Instant Message Chains, Forms
13	Enable the students to reflect apply their knowledge and to measure their strengths and weaknesses.	TOEIC Practice Test
14	期末試験	学期試験 Paper test
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Taking the TOEIC Skills and Strategies 2
参考文献・資料等	
備考	The lesson contents may subject to change and can be adjusted based on the pace and needs of students to ensure effective acquisition of TOEIC. Additional materials may

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーションⅡ	(TGB272)	
講義名 (コード)	コミュニケーションⅡA	(TGB272A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N1レベルの文法と聴解を中心に学び、細かなニュアンスの違いや音と音、言葉と言葉の間に隠された気持ちを理解し、国際的なコミュニケーション能力を伸ばす。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
2	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
3	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
4	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
5	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
6	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	11/3 文化の日 演習問題
7	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
8	JLPTの問題に慣れる	JLPT模試 文法 F.B
9	JLPTの問題に慣れる	JLPT模試 聴解 F.B
10	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
11	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
12	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
13	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 TRY!N1 文法
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリルN1 読解・聴解 TRY N1 文法
参考文献・資料等	適宜配布 適宜会話練習、文作、発表
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーションⅡ	(TGB272)
講義名 (コード)	コミュニケーションⅡB	(TGB272B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB2	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第5回 TRY!N2文法 文法
2	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第1回 TRY!N2文法 文法
3	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第2回 TRY!N2文法 文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第3回 TRY!N2文法 文法
5	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第4回 TRY!N2文法 文法
6	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第5回 TRY!N2文法 文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第1回 TRY!N2文法 文法
8	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第2回 TRY!N2文法 文法
9		JLPT模試 文法 F.B
10		JLPT模試 聴解 F.B 12/6 JLPT
11	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	12/3 ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第3回 TRY!N2文法 文法
12	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	12/10 ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第4回 TRY!N2文法 文法
13	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	1/14 ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第5回 TRY!N2文法 文法
14	期末試験	1/21 学期試験
15	追試・フィードバック	1/28 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリルN2 聴解 TRY文法N2
参考文献・資料等	適宜配布 適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プレゼンテーションⅡ	(TGB274)
講義名 (コード)	プレゼンテーションⅡA	(TGB274A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB2	単位数 2単位
授業担当者	渋谷 里美	時間数 30時間
成績評価教員	渋谷 里美	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体の内容と概要	時事問題などを中心に現代社会における諸問題を多国籍の学生との意見交換や発表を通して深く多角的な視点で理解し、国際社会の一員としての教養を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	時事問題① 日本の現代文化について学ぶ①	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ5 内容把握 『20日で合格N1』 第11回 文法
2	時事問題② 日本の現代文化について学ぶ②	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ5 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第12回 文法
3	時事問題③ 日本の現代文化について学ぶ①	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ6 内容把握 『20日で合格N1』 第13回 文法
4	時事問題④ 日本の現代文化について学ぶ②	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ6 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第14回 文法
5	テーマに基づいて意見を交換し、発表することができる。	テーマ（生教材）について正しく理解することができる。 『20日で合格N1』 第15回 文法
6	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	テーマ（生教材）について正しく理解することができる。 『20日で合格N1』 第16回 文法
7	身近な題材について他者の考えを受けグループの意見をまとめる。	テーマ（生教材）についてグループで意見交換しまとめる。 『20日で合格N1』 第17回 文法
8	テーマに基づいて意見をまとめ、発表することができる。	テーマ（生教材）についてグループの意見を述べる。発表。
9	異文化理解① 日本の現代的問題に関心をもつことができる①	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ7 内容把握 『20日で合格N1』 第18回 文法
10	異文化理解② 日本の現代的問題に関心をもつことができる②	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ7 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第19回 文法
11	異文化理解③ 日本の現代的問題に関心をもつことができる③	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ8 内容把握 『20日で合格N1』 第20回 文法
12	異文化理解④ 日本の現代的問題に関心をもつことができる④	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ8 内容理解・意見交換
13	1年の学習を振り返ることができる	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 上級 20日で合格N1 文法
参考文献・資料等	適宜配布する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プレゼンテーションⅡ	(TGB274)
講義名 (コード)	プレゼンテーションⅡB2	(TGB274B2)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB2	単位数 2単位
授業担当者	酒井 京子	時間数 30時間
成績評価教員	酒井 京子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文化を越えて共通するテーマについて異文化の人々と話し合う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ7 内容把握 漢字マスターN2
2	様々な意見を検討した上で自分の考えをまとめあげる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ7 発表 漢字マスターN2
3	最近のニュースについて分析する力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ8 内容把握 漢字マスターN2
4	最近のニュースについて自分の意見を交えて説明する。	読解厳選テーマ初中級 テーマ8 発表 漢字マスターN2
5	当たり前のことに対して疑問をもつ視点を身につける。	読解厳選テーマ初中級 テーマ9 内容把握 漢字マスターN2
6	小さなことについて面白く魅力的に説明する。	読解厳選テーマ初中級 テーマ9 発表 漢字マスターN2
7	他者の生き方から様々な学びを得る。	読解厳選テーマ初中級 テーマ10 内容把握 漢字マスターN2
8	他者の人生について説明することができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ10 発表 漢字マスターN2
9	事象を的確に捉え、問題点を素早く分析し自分の意見をまとめる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ11 内容把握 漢字マスターN2
10	説得力のある話ができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ11 発表 漢字マスターN2
11	微妙なニュアンスの違いを理解しながら内容を把握することができる。	漢字マスターN2
12	日常の些細な差異についてわかりやすく説明することができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ12 発表 漢字マスターN2
13		後期の復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	漢字マスターN2, 読解厳選テーマ別初中級
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス日本語応用Ⅱ		(TGB276)
講義名 (コード)	ビジネス日本語応用ⅡA		(TGB276A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N1以上のレベルの語彙を学び日本語語彙力を広げていく。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。また様々な語彙を使いこなせるようアウトプットの練習をし
授業時間外の学修	
履修上の注意事項 等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第12日 活動 1回目
2	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第12日 活動 2回目
3	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第13日 活動 3回目
4	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第13日 活動 4回目
5	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第14日 活動 5回目
6	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第14日 活動 6回目
7	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第15日 活動 7回目
8	語彙の習得 活動	20日で合格N1 語彙 第15日 活動 8回目
9	JLPT対策	JLPT模試
10	語彙の習得 「新しい技術の影響」について	20日で合格N1 語彙 第16日 J-PEAK UNIT 5
11	特別授業	特別授業
12	語彙の習得 「新しい技術の影響」について	20日で合格N1 語彙 第17日 J-PEAK UNIT 5
13	後期の内容の理解とまとめ	後期のまとめ
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	東京大学教養学部のアカデミック・ジャパニーズJ-PEAK 20日で合格N1 語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス日本語応用Ⅱ		(TGB276)
講義名 (コード)	ビジネス日本語応用ⅡB		(TGB276B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2の語彙を学び、使用できるようにする。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。また、さまざまな社会的問題を理解し、それについて自分の意見を述べ、他の学生と議論する。
授業時間外の学修	予習：意味のわからない語彙を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項 等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 11回 活動 1回目
2	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 12回 活動 2回目
3	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 13回 活動 3回目
4	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 14回 活動 4回目
5	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 15回 活動 5回目
6	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 16回 活動 6回目
7	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 17回 活動 7回目
8	語彙の習得 活動	パワードリル語彙 18回 活動 8回目
9	語彙の習得 時間について考える	パワードリル語彙 19回 日本語会話ワークブック 7課
10	JLPT対策 語彙の習得	JLPT模擬試験 パワードリル語彙 20回
11	語彙の習得 時間について議論する	パワードリル語彙 21回 日本語会話ワークブック 7課
12	語彙の習得 時間について発表する	パワードリル語彙 22回 日本語会話ワークブック 7課
13	後期の内容の理解と定着	後期の復習とまとめ
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	パワードリル語彙 N2 「読む」からはじめる日本語会話ワークブック
参考文献・資料等	適宜配布する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(TGB240)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣA	(TGB240A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	学内に招致する企業・学校を調べ、主体的に就職活動や進路先を主体的に調査・発表する。
全体の内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TBL 2年間の総括	卒業式でのありたい姿を明確にする。マンダラチャートを使い卒業式までの時間の使い方、目標を明確にする。
2	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
3	進学のための準備①	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
4	就職のための準備①	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
5	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
6	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
7	進学のための準備②	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
8	就職のための準備②	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
9	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
10	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
11	発表	進路報告プレゼンテーションの発表をもって期末評価とする。
12	2年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて1分間スピーチを行う。
13	2年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて1分間スピーチを行う。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。